六七〇四　［總論］蓋し天は能く散ず、　故に諸象は散布す、
六七〇五　　地は能く結ぶ、　故に諸質は結聚す、
六七〇六　散布する者は自から成る、　故に其の形は直圓なり、
六七〇七　　其の行は平側なり、
六七〇八　結聚する者は倚りて成る、　故に其の形は塊歧なり、
六七〇九　　其の行は邪曲なり、
*六七一〇（復元）是を以て轉の内。地の上。人と物とは天地を此に開きて。皆な覆載の間に遊ぶ。
*六七一一　風は俯し恬は立す、
*六七一二　海は拗し山は立す、　而して堅生は塊然として體を閉ず、
六七一三　　輭生は歧然として體を開く、
六七一四　開閉は生を別にし、　邪曲は變を盡くす、
*六七一五　一形は正斜を分つ。
六七一六　正なれば則ち直圓は規矩を含む、
六七一七　斜なれば則ち塊歧は邪曲を兼ぬ、
六七一八　正斜は錯綜し。萬形は變を極む。是を以て
六七一九　植は竪立の正を得ず、　以て邪の態を盡くす、
六七二〇　動は圓轉の正を得ず、　以て曲の態を盡くす、　然り而して
六七二一　天物の邪曲は、　行に多にして形に微なり、
六七二二　地物の邪曲は、　塊歧と相い配す、　夫れ

(PB 436)

六七二三　萬の形は。天に居る者の塊然たる、
　　地に居る者の歧然たる、何を以てか其れ然らん。
六七二四　天に在る者は、散中に象を聚めること、猶お水を噴きて許多の圓滴を得るがごとし、
六七二五　斜と雖も而も諸象は塊を爲す、
六七二六　地に依る者は、結中に體を凝らすこと、猶お壁を碎きて小大の缺片を得るがごとし、
六七二七　成と雖も而も歧を極む、　(I 451a)
六七二八　天に在る者は、塊然として圓を爲す、而して明なる者は高し、一列に平布す、
六七二九−三〇　暗なる者は卑し、參差に重畳す、
六七三一　地に在る者は、歧然として變を爲す、而して植なる者は地に著く、平布して位を守る、
六七三二−三三　動なる者は天に居る、位序して變り易し、是に於て　(PB 437)
六七三四　地上の萬形は。
六七三五　峙を爲す。陷を爲す。扁を爲す。頗を爲す。橢を爲す。稜を爲す。
六七三六　方を爲す。角を爲す。邪を爲す。曲を爲す。以て著く。以て依る。
六七三七　以て纏う。以て蔓る。以て倒る。以て正す。以て長し。以て短し。
六七三八　體行の間は。其の變を盡くさざる所莫し。
六七三九　正圓は平を用いず、規は能く平を爲す、
六七四〇　正直は竪を用いず、矩は能く竪を立す、
六七四一　平圓ならず之を曲と謂う、
六七四二　竪直ならず之を邪と謂う、
六七四三

六七四四　地なる者は。體を以て輹と爲す。故に
六七四五　地は横俯す、
六七四六　氣は竪立す、
六七四七　地は拗して水の平布を容る、
六七四八　　突して燥の混圓に居る、
六七四九　艸木は邪にして立つ、
六七五〇　鳥獸は曲にして俯す、然り而して
六七五一　星辰の行は、轉に在りて宛轉す、
六七五二　渾天の形は、地を裹みて直圓す、
六七五三　圓なれば則ち地に在る者は皆な天に在る、
六七五四　　天に在る者は皆な地に在る、
六七五五　是に於て運轉環守、噓噏發收は、天地の動機を見す、
六七五六　中外上下、東西南北は、天地の靜位を立す、
六七五七　天地轉持、水火山海は、以て物の體を成す、
六七五八　直圓規矩、横竪塊歧は、以て天地の形を成す、
*六七五九−六〇　唯だ風雲水火土石は。體を有すと雖も。而も未だ定形を持せず。是を以て
六七六一　分かてば則ち斜斜錯綜す、
六七六二　合すれば則ち直圓混成す、
*六七六三−六四　（傍記に付き削除）

六七六五　人と物と。同じく情欲意智を具す。而して
六七六六　思惟分辨の智は。人を最と爲す。是に於て
六七六七　唯だ人のみ天地を知るに足る。
六七六八　唯だ人のみ天地を行くに足る。
六七六九　直圓規矩に資ると雖も。歧然の身を以て。邪曲の行に依る。
六七七〇　天地は正邪を有す。故に人物は正邪に資る。
六七七一　天地　正を有せずんば、則ち物は焉んぞ正を有せん、
六七七二　天地　邪を有せずんば、則ち物は焉んぞ邪を有せん、
六七七三　動は必ず方を有す。人は得て之を道とす。
六七七四　天地は規矩を有す。人は得て之を則とす。故に
六七七五　圓は規を爲す、
六七七六　直は矩を爲す、
六七七七　圓の機や動なり、
六七七八　直の機や止なり、
六七七九　圓の力や轉なり、
六七八〇　直の力や持なり、
六七八一　圓の體や統なり、
六七八二　直の體や分なり、
六七八三　圓の用や混なり、

(PB 438)

(I 452a)

六七八四　直の用や粲なり、
六七八五　圓の化や徧なり、
六七八六　直の化や徹なり、
六七八七　圓の才や容なり、
*六七八八　直の才や斷なり、　是を以て
六七八九　靜にして圓なる者は湛なり、
六七九〇　靜にして直なる者は皦なり、
六七九一　動にして圓なる者は安なり、
六七九二　動にして直なる者は正なり、
六七九三　思にして圓なる者は靄なり、
六七九四　思にして直なる者は敢なり、
六七九五　交にして圓なる者は愛なり、
六七九六　交にして直なる者は敬なり、
六七九七　望にして圓なる者は溫なり、
六七九八　望にして直なる者は莊なり、
六七九九　辞にして圓なる者は婉なり、
六八〇〇　辞にして直なる者は切なり、　是を以て
六八〇一　則を有す。理を有す。紀を有す。章を有す。
六八〇二　位序粲然たる者は。直の事なり。詰る可からず。捉う可からず。

六八〇三　動きて愈いよ變じ。出て愈いよ窮まらず。
六八〇四　之を措きて其の處を知る無し。
六八〇五　之を置きて其の跡を見さず。
六八〇六　變化混然たる者は。圓の事なり。是の故に
六八〇七　直の至は、天も之に違うこと能わず、
六八〇八　圓の至は、神も之を窺うこと能わず、
六八〇九　夫の圓行直止を觀るに。
六八一〇　圓は規を爲す、
六八一一　直は矩を爲す、
六八一二　行止の規矩に中るは、聖人の事なり、
六八一三　圓ならざれば則ち曲なり、
六八一四　直ならざれば則ち邪なり、
六八一五　邪曲は則ち小人の事なり、是を以て
六八一六　智は圓ならざれば、則ち事物に通ぜず、幽明を辨ぜず、
六八一七　物我を隔てて、是非に惑う、
六八一八　行　直ならざれば、則ち外は飾り内は疚し、此に縮し彼に躓く、
六八一九　智　直ならざれば、則ち姦邪放僻　之を謀る、
六八二〇　行　圓ならざれば、則ち從容として物に役せられざるを得ず、
六八二一　粲立は痕を著す、

（安永本から復元。）

(PB 439)

六八二二　混成は跡を没す、
六八二三　混にして能く通じ。活にして能く神し。窮まらずして變ず。痕無くして化す。
六八二四　混たらざれば則ち通ぜず。通ぜざれば神ならず。神ならざれば變ぜず。
六八二五　變ぜざれば化せず。化せざれば物を成さず。
六八二六　物を成さざれば奚れの事物か之れ有らん。

(PB 440)